

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：37111

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02520

研究課題名(和文) アメリカ文学における科学技術とヒューマン・アイデンティティの変容

研究課題名(英文) The Shifts of Technology and Human Identity in American Literature

研究代表者

新田 よしみ (Nitta, Yoshimi)

福岡大学・国際センター・講師

研究者番号：80465723

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：テクノロジーの隆盛がアメリカ文学に与えた影響を、各研究者の研究作家を中心としつつ、その文化的かつ社会的影響を通史的に論じることを目指した。「テクノロジーの隆盛」が「アメリカ文学」へ及ぼした影響を研究すると、その中心が産業革命前後の19世紀になりがちである。そのため、テクノロジー黎明期である18世紀の文学作品や文化史、20世紀や19世紀に発表されたアメリカ文学作品にまで研究対象を広げた。そして「テクノロジー」と「人間表象」が相互補完しあっていることと、アメリカ文学(特にポストモダン作品)を研究する際には、双方からの視点が必要であるという結論に至った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

テクノロジーの発達により、作品内での登場人物の表象のされ方が決定されるだけでなく、登場人物が理想の姿として表象されるべくテクノロジーを利用しているのではないかと仮説を立てて、「テクノロジー」と「アイデンティティ」は相互補完性を中心に研究を進めた。

現在AIなどの発達によって、改めて「人間とは何か」が問われているだけでなく、人々の生活のあらゆる面においてテクノロジーの影響が顕著となっている。「テクノロジーは人の在り方をどのように変えるか」だけでなく、「人が理想とする姿になるために、テクノロジーはどのように役立つか」という方向からの研究が可能であると示すことができたと考えている。

研究成果の概要(英文)：Our group focuses on how the development of technology affected the descriptions in American Literature, by considering its historical development, cultural background, and effects of social systems while discussing each writer's novels, novellas, and short stories. Many critics tend to criticize the relationships between technology and human identities in 19th century as a result of the Industrial Revolution; however, we expanded the area of our research from 18th century to the present and researched literary works, cultural history, and relevant fields. Though each member's research topics are different from each other, we tried to make clear how technological development influenced on humanities.

研究分野：アメリカ、ポストモダン文学

キーワード：テクノロジー アイデンティティ ポストヒューマン 音楽 写真論 空間認知 身体表象 オートマタ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者及び研究分担者は現代アメリカ文学を研究対象としている。ポストモダン作家に共通してみられるのが、作家自身が世界の文学作品や歴史、文化に対する造詣が深いだけでなく、アメリカの大学で教鞭を取っていたり、雑誌に連載をしていたり、大学生に向けた学術講演を積極的に行っているという点である。つまり、膨大な知識(文学批評や歴史、各国の文学作品に至るまで)に裏打ちされて作品を執筆していると言い換えることができる。このような状況から、現代の作家を研究する際には、「現代」にのみ特化するのではなく、作家本人のアイデアの源泉になっていると考えらえる過去の文学作品やそれらに付随する批評理論、文学理論や文化研究などにも焦点をあてる必要がある。

このような視点からポストモダン作品研究を進めていくと、現代アメリカ文学作家に共通するテーマの一つに「テクノロジー」があげられることに気づいた。テクノロジーが発展している現代において、その影響は文学作品にも及んでいる。テクノロジーという言葉から SF が想起されるが、SF 作家ではない現代アメリカ文学作品においてもテクノロジーの影響があることが明らかとなった。そしてテクノロジーが、作品の人物造形へと少なからず影響していることが明白となり、「テクノロジーとアイデンティティの関係性を文学作品から探る」という研究テーマが生まれた。

2. 研究の目的

本研究は、アメリカにおいて「何を科学技術とみなすか」という科学技術に関する言説と「人間とは何か」というヒューマン・アイデンティティに関する言説は絶えず相互的に影響を与えてきたのではないかという仮定の下、文学における両者の表象に関して、その変容の相互関係を建国の時代から現在に至るまで通史的に考察することを目的とした。これは、科学技術の発展が人間の在り方に影響を及ぼしてきたことを主張する文学研究ではなく、前述の二つの問いに対する答えが相互関係にあるのではないかという仮説を検討するものである。アメリカ文学を科学技術という言説とヒューマン・アイデンティティという言説の交差点から再考する本研究は、文学や科学史、アメリカ思想史の領域を横断する革新的なものになることを目指した。

3. 研究の方法

研究期間の最終目標を、「九州アメリカ文学会に於いてワークショップ開催」とした。これに向けたグループでの勉強会を月に一度開催しつつ、研究者個人が各々の研究テーマを決めて論文精読にあたった。

(1) 関連する文献の精読

「テクノロジー」の起点を 19 世紀の産業革命に置いた。研究初年度は「テクノロジー」が生み出されるきっかけとなった「電気」という考え方を、メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』を精読することで分析した。特に『フランケンシュタイン』に登場する怪物を、「アイデンティティ」という観点からとらえなおした。「電気」に関する描写を踏まえて、怪物に名前が付与されていない理由を検討した。次いで、産業革命によって生み出された鉄道、自動車などが当時の大衆に与えた心理的影響や文化的背景を、Leo Max *Machine in the Garden* (1964) を中心に検証した。

研究 2 年目、3 年目は、各研究者の研究テーマを踏まえつつ、テクノロジーがもたらしたインパクトを社会文化的な視点から論じている文献や、19 世紀に発表された文学作品を論じた文献を精読していった。

(2) 各研究者による研究

テクノロジーが当時の大衆に与えたインパクトが明らかにならないうちに、人々がテクノロジーに対しどのように対処していったかが研究の焦点となった。そこで、研究対象とする作家や作品、作品の時代背景などを各研修者が決めて、「テクノロジー」と「アイデンティティ」の関連性を明らかにしていくこととした。下條は、写真というテクノロジーを念頭に、19 世紀の作家たちと彼らの肖像写真から、写真技術が人物表象の在り方を変え、被写体が望むアイデンティティを付与することも可能となっていたという研究を行った。肥川は、現代アメリカ文学作家ドン・デリー口の長編作品『リブラ』に登場するオズワルド(ケネディ大統領暗殺犯とされる人物)の人物描写を、残された映像作品を中心に研究を進めて、ノンフィクション作品の登場人物と実在の人物の間におけるずれを明らかにした。ピューは、20 世紀作家カート・ヴォネガットの長編『プレイヤーズ・ピアノ』における音楽の役割と、音楽を生み出すテクノロジーと人間の、特に働き方や意識の変化を、歴史的側面も併せて研究した。新田は、現代アメリカ文学作家スティーブン・ミルハウザーの短編作品群に登場する「オートマタ」表象が、19 世紀以降顕著となった「理想的身体を持つ人間像」を体現しているという仮説を立てて、オートマタの登場する文学作品とそれらが発表された文化的・歴史的背景を整理し、ミルハウザー作品におけるオートマタの位置づけを試みた。

4. 研究成果

(1) 文献精読：月に一度研究会を開催し、以下の文献を精読していくことで、知見を深めた。

- Mary Shelley, *Frankenstein* (1818)
- Leo Marx, *Machine in the Garden* (1964)
- David Porush, *The Soft Machine: Cybernetic Fiction* (1984)
- Mark Seltzer, *Bodies and Machines* (1992)
- Ruth Schwartz Cowan, *A Social History of American Technology* (1997)
- William Gibson, *Spook Country* (2007), *Pattern Recognition* (2003)
- Carroll Pursell, *Companion to American Technology* (2005)

各研究書は、文学作品やアメリカ社会が「テクノロジー」の出現によってどのように変節していったかを考察している。特に Mark Seltzer の研究書は、アメリカ文学以外にもその視点を向けて、作品に描かれる人々の生活が、テクノロジーによってよくも悪くも変化せざるを得なかった状況を、作品出版時の社会状況も踏まえて論じており、精読することで得られた知識を研究へ役立てることができた。

また、Mary Shelley と William Gibson はどちらもテクノロジーを扱った文学作品であり、作品発表時のテクノロジーを取り巻く人々の反応や社会通念などを把握するのに大変役立った。

(2)九州アメリカ文学会 12月例会でのワークショップ実施

本研究の集大成として、2018年12月に福岡大学にて開催された「九州アメリカ文学会 12月例会」にてワークショップを実施した。

ワークショップのタイトルを「Retrospectives on Technology in American Literature: Art and Transformations of Identity」とし、各研究者は以下のテーマで発表した。発表から質疑応答に至るまですべて英語で行った。(数字は発表順)

1. C. Scott Pugh

Music on a Roll: The Trajectories of Player Pianos and American Identity

2. Yoshimi Nitta

The Theater of Sensory Stimulation: Automata in Steven Millhauser's Short Stories

3. Kinuyo Koikawa

Archival Technologies and Diffused Identities in Don DeLillo's *Libra*

4. Keiko Shimojo

Overwriting the Self: Autobiography and Technologies of Photography

大変多くの参加者にご参加いただいた。質疑応答では、テクノロジーとアメリカ文学や発表内容、今後の研究テーマなど、活発な議論が英語で行われた。

今後は本研究で得られた知見をもとに、研究成果を一冊の論文集へとまとめる予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 新田 よしみ	4. 巻 9
2. 論文標題 Steven Millhauserの短編“ The Other Town ” に登場するレプリカが曖昧にする人々の自己認識	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本人類言語学会誌	6. 最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 肥川 絹代	4. 巻 27
2. 論文標題 Authenticity of "Being" Shaken in White Noise	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Kayanomori	6. 最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 肥川 絹代	4. 巻 1
2. 論文標題 Ideas to Boost Tourism: From William Gibson's Spook Country to 'Pokémon Go,' and Mixed Reality	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Global Tourism Research	6. 最初と最後の頁 105-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 肥川 絹代	4. 巻 30
2. 論文標題 Archival Technologies and Diffused Identities in Don DeLillo's Libra.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Kayanomori	6. 最初と最後の頁 20-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 新田よしみ	4. 巻 11
2. 論文標題 人形を人たらしめる芸術 Steven Millhauser, "The New Automaton Theater"の主人公Heinrich Graumの挑戦	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本人類言語学会誌	6. 最初と最後の頁 96-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 新田 よしみ
2. 発表標題 The Theater of Sensory Stimulation: Automata in Stiven Millhauser's Short Stories
3. 学会等名 九州アメリカ文学会12月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Scott Pugh
2. 発表標題 Music on a Roll: The Trajectories of Player Pianos and American Identity
3. 学会等名 九州アメリカ文学会12月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 肥川 絹代
2. 発表標題 Archival Technologies and Diffused Identities in Don DeLillo's Libra
3. 学会等名 九州アメリカ文学会12月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 下條 恵子
2. 発表標題 Overwriting the Self: Autobiography and Technologies of Photography
3. 学会等名 九州アメリカ文学会12月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新田 よしみ
2. 発表標題 見えない恐怖を顕在化する存在 “Eisenheim the Illusionist” に登場する幻影たち
3. 学会等名 九州アメリカ文学会第64回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 下條 恵子
2. 発表標題 ソローの影響力 生誕二百年記念シンポジウム「ソローとオースター：19世紀アメリカの家政学と保険思想の観点から」
3. 学会等名 日本英文学会九州支部第70回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 下條 恵子
2. 発表標題 生き残りの技巧 オースター作品におけるパフォーマンス
3. 学会等名 九州アメリカ文学会12月例会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 肥川 絹代
2. 発表標題 Identity and technology of language in Don DeLillo's Libra
3. 学会等名 International Conference on Social Science, Literature, Economics and Education (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 巽孝之・宇沢美子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 よくわかるアメリカ文学史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>2018年度九州アメリカ文学会12月例会において、ワークショップを実施した。 The shift of technology and human identity in American Literatureというタイトルで、各研究者が独自の視点から「テクノロジー」と「アイデンティティ」を論じた。</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	肥川 絹代 (Koikawa Kinuyo) (20740674)	近畿大学・産業理工学部・教授 (34419)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	下條 恵子 (Shimojo Keiko) (30510713)	九州大学・言語文化研究院・准教授 (17102)	
研究分担者	C . S C O T T P U G H (Scott Pugh) (60244795)	西南学院大学・文学部・教授 (37105)	